

子ども第三の居場所開所式

～4月1日から使用開始しました～

令和6年4月3日、明和町子ども第三の居場所B & Gめいわ（愛称：こどものいえメイプル）の開所式を行いました。第109回コラムでもご紹介しましたが、B & G財団様から建築費と運営費を支援していただき設置することができました。



【右から公益財団法人B & G財団 菅原理事長、私、

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション 市村代表理事】

子どもを取り巻く環境は、地域とのつながりの希薄化や、少子化の進展により「地域で子どもを育てる」という昔ながらの考え方が後退しておりま

す。近所に住んでいても、どこの家庭の子なのか？大人も子どもも分からないというのが現状です。

江戸時代の中期から明治にかけて、「郷中教育」と言われる薩摩藩独特の教育システムがありました。郷中教育には、先生というような特別な存在はなく、年上が年下に学問、武術、心の鍛錬を、細かく指導していました。そこでは、「負けるな・嘘をつくな・弱いものをいじめるな」などといった日新公にせばなしかくしきじょうもくいろは歌や二才咄格式定目を教育の根幹としていたそうです。

鹿児島市加治屋町では、この郷中教育で育った

さいごうたかもり おおくぼとしみち とうごうへいはちろう おおやまいわお
西郷隆盛、大久保利通、東郷平八郎、大山巖、

やまもとごんべえ
山本権兵衛、などと明治から昭和にかけて偉人を多く輩出したことで有名です。



「地域で子どもを育てる」ことは、人を育てることの本質なのでは、と考えます。

近年は、こどもの不登校や自殺、虐待、貧困についても増加傾向にあります。そのため、複雑化する問題に対し、社会全体として包括的に子どもを支える取り組みが必要であると言われております。このような状況の中、課題解決に向けて、学校でも家庭でもない、子育て家庭が抱える課題へのサポートができるように「子ども第三の居場所」を設置しました。



【子ども第三の居場所 全景】

「子ども第三の居場所」は、群馬県内ではみどり市に次いで2カ所目で、自治体運営では初の取り組みになります。この場所が、地域ネットワークの結節点となり、子育てコミュニティが生まれることで「地域で子どもを育てる」社会を目指してまいります。

また、利用する子ども達が、生活学習の習慣を身につけていくことはもとより、信頼できる大人や友達の存在を身近に感じながら、将来の自立に向けて「生き抜く力」を育てたいと願っています。



【みんなが集うフリースペース】



【みんなで使う洗濯機、洗面台、キッチン】



【清潔なお風呂】

ご支援をいただいておりますB & G財団様に感謝を申し上げますとともに、運営をお願いしております特定非営利活動法人ターサ・エデュケーションの皆様にご期待申し上げます。

令和6年4月17日

明和町長 富塚もとすけ